

ふくしま青年海外協力隊の会

今年度、当会が主催/協力/参加した数々の事業イベントをOVのエッセイから振り返ります。

NEWS 2019 – 2020

01 会長挨拶

皆さん、新しい年度に入りいかがお過ごしでしょうか？私がこの文章を書いているのは、3月末で、場所はフィリピンのマニラになります。フィリピンはロックダウンされ、夜間外出禁止、各世帯1名しか外出許可は下りず、市毎に完全に隔離され、交通手段は全て停止し、スーパーで買い物をするだけで2時間以上かかります。現在の福島がこのような事態になっていないことを願っております。

話を戻します。私は最終的に2年間の職務を全うせずに日本を経つことになりました。そのようなことが出来たのも、福島のOV会に協力隊を終わってからもボランティアを続けようという意思のある方々がたくさんいてくれたお陰です。そして、会長がいなくても会を支えて頂いた、伊東さん、星さんや、そのほかの担当者のおかげで、福島で行われたイベントを無事に実施することが出来ました。

本当にありがとうございます。

協力隊から帰国した時は、また協力隊に関わることなど無いと思っていました。しかし、福島県OV会と関わり、会長職に従事するまでになり、今フィリピンで働いているのも、協力隊時代に英語を勉強したからです。何だかんだ言って、協力隊に行ったから大きく人生が動いているのだなぁと感じます。OV会の中で、今皆さん同士が関わっているのも、協力隊があったからだと思います。きっと今、大変な状況であるとは思いますが、活動を積極的にしなくてもいいです。この繋がりを少しでも良いので絶やさないようにしていただければと思います。

短い間でしたが、皆さん本当にありがとうございました。これからも、フィリピンから何か手助けできることをしていきたいと思えます。

吉田 淳平 (H23-1 ルワンダ 食品加工)



Contents

01 会長挨拶

02 地球体験キャラバン

- ・さくら学童クラブ
- ・だんざき子どもクラブ
- ・ガールスカウト福島県連盟
- ・平田村中央公民館
- ・須賀川市民交流センター
- ・田村市常盤公民館
- ・二本松中央公民館
- ・塙町青少年育成町民会

03 結・ゆい・フェスタ 2019

04 グローバルフェスタ

JAPAN2019

05 わくわくワールドフェスタ in 相馬

02 地球体験キャラバン in さくら学童クラブ 2019/8/2

星 明彦 (H27-2 セネガル 数学教育)

夏休み期間にさくら学童クラブの小学校1~6年生を対象にキャラバンを行いました。OV会からは吉田さん(ルワンダOV)と私(セネガルOV)の2名と国際交流員2名の計4名のキャラバン隊メンバーでした。学童クラブの参加人数も25名程度とバランスがよかったです。興味を持ってもらえるような声掛けや活動にメリハリをつけて低学年の子も楽しめるように工夫しました。子ども達もキャラバン隊も終始楽しめている様子でよかったです！



発行：ふくしま
青年海外協力隊の会
発行日：2020/5/1
編集：金山忍
(H21-4 タイ 陶磁器)
FOCAの最新情報掲載中！
H P：http://foca.jocv.net



地球体験キャラバン in たんざき子どもクラブ 2019/8/9

今回のキャラバンも夏休み期間の平日に地球体験キャラバンを開催しました。今回のキャラバン隊のメンバーは、OV会から吉田さん(ルワンダOV)と私(セネガルOV)の2名。国際交流員はトビーさんとロンドン在住経験がある国際課の渡邊さんの計4名でした。日本以外の国の地図や人気のスポーツ、楽器など手に触れて体験できたことで子ども達もとても楽しそうな様子でした。キャラバン後にクラブ内の地球儀で国の名前や位置を確かめていたそうです！

地球体験キャラバン in 国立磐梯青少年交流の家 2019/8/10

中田ひろみ (63-2 ホンジュラス 家政)

猛暑の中、大汗流しながら、水分補給しながら、総勢 80 名のみなさんとのキャラバンでした。鈴木正人マレーシア OV、星明彦セネガル OV、中田ホンジュラス OV の 3 名、県国際課からは渡邊美里職員、国際交流員の黎 永楊さんの計 5 名でした。アイスブレイクは身体を使ったじゃんけんゲーム。地球体験キャラバンスペシャルで覚えたニカラグアのじゃんけんです。恒例の「外国人は誰だ？」ではなんと私達全員に外国人疑惑！一番挙手が多かったのは鈴木正人マレーシア OV でした。



マレーシアのブースではマレーシアグッズを飾り、マレー語のあいさつと自己紹介・クイズでの国紹介。セネガルのブースではセネガルグッズを飾り、フランス語のあいさつと自己紹介・クイズでの国紹介。中国のブースでは中国語のあいさつと自己紹介・クイズでの国紹介と中国茶の試飲。イギリスのブースではイギリスグッズを飾り、英語のあいさつと自己紹介・クイズでの国紹介。ホンジュラスのブースではホンジュラスグッズを飾り、スペイン語のあいさつと自己紹介・クイズでの国紹介。熱心に聞く態度や質問の多さに驚きました。皆さんから喜んでいただけたのがなによりでした。私達にとって当たり前なことでもキャラバン参加してくる子供達には目新しいことばかりです。新鮮な風に吹かれない、何か新しい発想に刺激されたい 63-2 OV の私です。まだキャラバンに参加するチャンスがなかった OV の皆様、特に若い OV の皆様、キャラバンへの参加を心よりお待ちしております。大歓迎いたします。



地球体験キャラバン in 平田村中央公民館 2019/8/24

中山 澄子 (H12-1 パラオ 小学校教諭)

昨年に引き続き2回目のキャラバン。リピーターが 6 割ほどおり、交流員・OV も昨年度の同じメンバーのため、アクティビティに新しいものを取り入れ、参加者とたっぷり触れ合えるよう、県担当者にも留学経験を紹介してもらったこととした。外国人ゲスト1、民族衣装の OV3、県担当者1の、計5名のゲストに子ども達は興味深々。リピーターの子供達は「あつ、覚えてる！！」と、人懐こい笑顔で私達を迎えてくれた。

オープニングでは、外国人を当てるのではなく、ゲストの言葉に耳を傾け、国名を子ども達に聞き取らせた。ゲストの言葉に耳を澄ました子ども達は、「あつ、〇〇っていった！！」「えっ、そんな国あったかな…？」と子ども達の目を輝かせた。「中国」の発音がなかなか聞き取れずに、「朝鮮」「ベトナム」など…知っているアジアの国名がたくさん飛び出し、盛り上がった。グループワークを多くし、ゲーム、ワールドクイズでピンゴを行った。

クロージングとして、子ども達やゲストに感想を発表してもらう時間を作った。恥ずかしそうに話す子ども達の言葉に、ふるさとを大事にする熱い思いと世界への興味を強く感じた。公民館で、通年募集し、毎月活動している子ども達であるので、子供たち同士の関係がいいと感じた。また、公民館の方々が会場で運営をサポートして下さり、子ども達の良さを引き出す声掛けもなされていた。とてもあたたかい雰囲気の中でキャラバンを実施することができたことが大変良かった。



地球体験キャラバン in 須賀川市民交流センターtette 2019/12/7

中山 澄子 (H12-1 パラオ 小学校教諭)

昨年に引き続き、2 回目のキャラバン。今年度の要請は音楽。ゲストと参加者とたっぷり触れ合えるよう、JICA 研修員 10 名にもゲストとして参加してもらうことにした。参加者 18 名は、互いに面識がなく、不安そうな面持ち。その上、18 名の参加者に対してゲストが 15 名もいたこと、また、背の高い人がとても多かったこともあり、子ども達は圧倒され、固まっていた。また、交流員や研修員も、参加者の雰囲気にもまれ表情が硬く、ゆったりした流れにプログラムを変更して実施。

研修員はロシア語で、交流員はスペイン語が共通言語のため、地図・国旗・写真・イラスト・手遊びなどで、コミュニケーションを取ろうとしていた。車座になって、ポスター裏紙を囲んで頭を突き合わせて活動することで、互いの心の距離が近くなった。風船を使ったゲームでは、お互いに声をかけたり応援したりすることで、参加者との距離は一層近くなり、大変盛り上がった。アゼルバイジャン出身の研修員が、ダンスを披露してくれた。みんなで大きな輪になり、周りながら踊った。

クロージングとして、参加者だけでなくゲストにも感想を発表してもらう時間を作った。活動を精選し、短い中でゆったりと活動をいれたことで、じわじわとあたたまり、和やかな雰囲気の中でキャラバンを実施することができたことが大変良かった。グループの中で研修員が子ども達にキーホルダーのようなものをプレゼントする場面があり、グループ間で不公平が生まれるのが気になった。



地球体験キャラバン in 田村市常盤公民館 2019/12/14

中山 澄子 (H12-1 パラオ 小学校教諭)

今回、坂中以外のキャラバン習熟者の予定がつかず、郡山滞在中の JICA 研修員をゲストに迎えて実施した。研修員引率の水谷 OV・本名 OV には、会場設営、信仰補助をお願いした。また、JICA のロシア語通訳の協力をいただいた。キャラバン要望団体は毎月活動しているため、集まった子供達は顔見知りゆえ、受付の際、ゲストや国旗、民族衣装などを見かけて「えっ？英語なの？」「今日、やだな…」「帰る！」という声が上がった。



オープニングでは、ゲストが挨拶・名前・国名の順で言い、参加者には国名を聞き取らせた。聞いたことのない、初めて聞く国名に戸惑いながらも、一生懸命聞き取ろうとしていた。Team building として、自己紹介の時間をたっぷりとした。交流員は日本語が堪能。研修員の共通言語はロシア語。出だしは通訳を介していたが、次第に、地図・国旗・写真・イラスト・手遊びなどでコミュニケーション取ろうとしていた。ポスター裏紙を囲んで頭を突き合わせて一緒に床に座りながら、話す聞く活動を行うことで、互いの心の距離が近くなった。ゲームでは、英語を聞き取り、「体の部位」では自分の体をタッチし、「スマイル」では満面の笑顔を見せ、「バルーン」と言われたら風船を素早く取るゲームをした。歓声があがり、盛り上がった。交流員に指示を出してもらい、中国語版でも楽しむことができた。ジョージア出身のゲストが、ダンスを披露。馬をイメージした躍動感のある男性的な踊りであり、緩急を付けて回りながら、みんなで大きな輪になって踊った。時間に余裕があったので、急遽、「サンタクロース」という曲を、パラオ語で歌いながらみんなで踊った。

クロージングの感想発表では、簡単な英語で話す児童も多かった。グループ内で仲よくなり記念写真を撮っていた。ゲストがアーチを作って参加者を見送る際に、受付で最後まで「帰る！」と不安がっていた参加者が最後まで会場に残り、笑顔で「楽しかった」と言って帰ったことが印象的だった。途中何度か、グループで一緒に活動できずに走り回ってしまう参加者もいたが、公民館の職員の方がそばでやさしく声をかけて一緒に活動するなど配慮していただき、なごやかな雰囲気の中でキャラバンを実施することができたことが大変良かった。



地球体験キャラバン in 二本松中央公民館 2019/12/15

鈴木 光飛斗 (H27-2 モザンビーク 体育)



子どもだけでなく、保護者にも参加してもらいながら、体験を通して学べる内容で地球体験キャラバンを行いました。冒頭ではモザンビークの現地語の挨拶や、現地の庶民のお仕事体験。国際交流員のトビーさんによるニュージーランド紹介、元ヨルダン隊員の長沼さんによるヨルダン紹介、そして元マレーシア隊員の中鉢さんと来日していたマレーシア人ボンさんキューさんによる現地の遊び体験。最後に民族音楽、楽器の体験として外部ボランティアの協力でアフリカ太鼓の演奏体験をしました。

地球体験キャラバン in 塙町公民館 2020/2/8

伊東 瑞歩 (H24-1 ブータン 栄養士)

2020年2月8日、塙町公民館で塙町青少年育成町民会議の小学生を対象に、地域の高校生ボランティアと協力して実施しました。ゲストは、OV 会から柴さん、西間木さん、伊東、そして県から国際課の渡邊さんと国際交流員のウインズさんの5名でした。参加者は、グループワークで各国の食文化や生活について質問したり、ゲームをしたりして積極的に交流していました。キャラバンを通して、異文化や世界について今まで以上に興味を持ったようです。



03 結・ゆい・フェスタ 2019 9/28-29 東京お台場海浜公園

後藤 祥与 (H26-1 フィジー 栄養士) 小倉 貴美子 (H21-4 マダガスカル 看護師) 長沼 舞子 (H28-3 ヨルダン 音楽)



マンカラや缶バッジ作り、写真などの展示物を通して、幅広い年代の方に異文化交流を深めてもらえたように思います。その中で何名か JICA ボランティアに興味を持って下さった方もいました。福島市から JICA ボランティアアピールの場所と時間をいただいたが、初めての試みだったこともあり、うまく活かすことはできませんでした。協力隊に関心がある人や憧れを抱いている人は少なくないため、気軽に異文化体験を味わえるこの機会をさらに有効活用したいと思います。

04 グローバルフェスタ JAPAN2019 9/28-29 東京お台場海浜公園

小熊 則子 (H2-3 サモア 音楽)

9月28～29日に東京のお台場海浜公園で行われた「グローバルフェスタ JAPAN2019」に当会でブースを出展しました。台風により開催日短縮となった去年と違って、両日も天気が良く、約18万人の来場者がありました。ブーススタッフとして、吉田淳平会長、山崎裕章さん、川崎豊さん、伊東瑞歩さん、上野真理恵さん、西間木暁さん、宍戸麻理子さんにご協力いただきました。

ブースで実施した「ふくしま福引」は大人気で、100名を超える方々にご参加いただきました。福引の1等賞品「会津産新米10kg(会津若松市在住村山英司OB栽培)を当選者宅へ直送」を当てたのは、なんと村山OBのネパールの同期隊員でした！あまりの偶然に驚きました。



当会では、東日本大震災復興支援活動の一環として、昨年からお出展しています。昨年の反省を生かし、福島をより身近に感じていただける内容、気楽にブースに立ち寄っていただける工夫に力を入れて準備しました。皆様のご協力のおかげで、多くの方とお話ができ、福島の現状や良さを知っていただくことができました。来年度へ向けたアイデアも、今回の出展時にいくつか出ています。それを温めながら、また来年につなげていきたいと考えています。私達の経験や日常を生かし、これからも福島の復興を発信し続けていきましょう！

05 わくわくワールドフェスタ in 相馬 2020 2/16 相馬総合福祉センター

高橋 司 (H17-2 メキシコ 青少年活動)

2月16日(日)わくわくワールドフェスタ in 相馬が相馬市総合福祉会館(はまなす館)で開催されました。今回は、現在JOCA岩沼にお勤めの青木さん夫妻をはじめ、水谷さん、渡邊恭子さん、長沼さん、中鉢さん、そして JICA 二本松から坂本さんにご協力いただき、缶バッジづくり、協力隊資料の配布、民芸品やくるくるレインボーの販売等を行いました。当日は、雨や感染症の影響もあってか例年よりも客足は少ないようにも見えましたが、会場は熱気ムンムン、沢山の人が賑わいました。OVが集う、つながるだけでも、なにか起きそうな感じがします。

